



## 薬剤部のご紹介

病気の治療や予防、健康の維持などのために、薬は私たちの生活に欠かせないものになっています。患者様にとって最も安全で効果的な薬物治療の手助けを行うことが私たち薬剤師の仕事です。

当薬剤部では、以下のような業務を日々おこなっています。

- ・調剤業務
- ・院内製剤調剤業務
- ・薬剤管理指導業務
- ・チーム医療への参加
- ・注射剤調剤業務
- ・医薬品管理
- ・病棟薬剤業務
- ・実習生の受け入れ
- ・医薬品情報管理業務
- ・薬物血中濃度モニタリング業務
- ・外来での持参薬鑑別

また、各種専門資格の取得や学術大会や院外勉強会での発表なども積極的に行っています。  
各種専門資格認定（平成28年6月現在）：

感染制御認定薬剤師	1名
NST 専門療法士	2名
漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
緩和薬物療法認定薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	4名
生涯研修履修認定薬剤師	4名
研修認定薬剤師	1名
スポーツファーマシスト	1名

各種専門資格認定予定：

NST 専門療法士	2名
腎臓病薬物療法認定薬剤師	1名

実績(平成28年6月現在)：

- 平成24年12月1日 第15回奈良県病院薬剤師会学術大会 シンポジウム  
「病棟薬剤業務実施に関する動き」
- 平成25年1月26・27日 第34回日本病院薬剤師会近畿学術大会  
「病棟薬剤業務実施加算の新設に伴い、業務の見直しと他の医療スタッフへの影響についての調査」
- 平成25年10月24日 第4回奈良県病院薬剤師会中小病院・診療所研修会  
「当院における病棟薬剤業務について」
- 平成25年12月7日 第16回奈良県病院薬剤師会学術大会  
「当院における手術予定の外来患者への持参薬確認と指導について」
- 平成26年11月15日 チームで考える糖尿病医療の会  
「糖尿病のリスク管理について」
- 平成28年2月9日 病棟常駐業務研修会  
「当院における病棟薬剤業務について」

## 調剤業務

当院は電子カルテを導入しており、処方された内容が迅速かつ正確に薬剤部へと送信されます。また、調剤時には外来及び入院中の処方歴や各部門からの蓄積されたデータを基に、処方内容の監査や薬剤の重複投与などのチェックを行っています。



【処方箋の発行】



【全自動錠剤分包機】



【自動散薬分包機での調剤】

ご自分での薬の管理が難しい患者様には、全て一包化を行っています。これらの薬は、朝・昼・夕・寝る前で1週間分を患者様ごとに配薬カートにセットして病棟に払い出しています。配薬カートにセットすることで正確な服薬状況が確認でき、コンプライアンスの向上につながります。



【配薬カートへの薬のセット】

## 注射剤調剤業務

注射薬も処方箋に基づいて内容の確認を行い、各階の患者様1日使用分ごとに注射カートにセットして病棟への払い出しを行っています。



【注射の調剤、監査】



【注射カート】

また、中心静脈点滴（TPN）や抗がん剤の調整は、細菌汚染を防ぐために薬剤部内にある無菌室のクリーンベンチや安全キャビネットでの混合調製を行っています。



【安全キャビネットでの抗がん剤の調製】



【配合変化などのチェックや空のアンブルを用いての監査】

## 医薬品情報管理業務

医師や看護師など病院で働くスタッフからの問い合わせに対応します。また、患者様向けの季節に合った薬の話を提供する「薬局だより」、医療関係者向けの日々の問い合わせ内容や新規採用薬のお知らせ、薬剤の効能やトピックスなどについて記載した「DI ニュース」を毎月定期的に発行しています。その他、院内採用医薬品集の編集なども行っています。

## 院内製剤調剤業務

市販品では十分な対応ができない薬品や製剤などは、院内で製剤調整を行っています。院内製剤には、病棟や外来診療で使用される消毒薬や特別な濃度の処置薬など、様々なものがあります。



【院内製剤の調整】

## 医薬品管理



【手術室の薬品カートの補充】

病院内で使用されるすべての医薬品の使用状況を把握し、一貫した管理を行います。特に、病棟や外来診察室のストック薬は定数配置としているため、定期的に配置数や使用期限等の点検確認を行っています。また、手術室の薬品カートの補充も行っています。

## 薬物血中濃度モニタリング(TDM)業務

医師からの依頼に基づいて TDM を行い、最も高い治療効果が得られるよう、また、副作用を未然に防ぐために取り組んでいます。

## 薬剤管理指導業務

投薬の有無に関わらず、入院された当日または翌日に、ほぼ全ての患者様に薬剤師がうかがいます。アレルギー歴やこれまでの服薬歴の確認、新しく始まる薬の説明、服用状況の確認を行います。また、退院される際は、退院処方があれば『薬剤情報提供書』『退院時のお薬についてのお知らせ』『お薬手帳』と一緒に薬をお渡ししています。『退院時のお薬についてのお知らせ』とは、入院中における患者様の薬に関する特記事項をはじめ、調剤における留意点や薬剤の保存方法など、医療関係者・患者様の双方にとっての大切な情報を正確に提供するためのものです。

## 病棟薬剤業務

当院では、平成21年7月より病棟常駐薬剤師を配置しています。各階に6~7名ずつ担当薬剤師が決められており、毎日1人または2人を交代で配置し、様々な業務を行っています。



### ・持参薬の鑑別

持参薬とは、患者様が入院時に持ち込まれる普段から服用・使用されている薬のことです。患者様が持参薬をお持ちであれば、必ず入院初日に一度薬をお預かりし、薬の種類・用法・残数・当院採用薬への代替薬の提案などを行なっています。鑑別した情報は電子カルテに入力し、情報の迅速な共有化を図っています。これにより、手術や検査を控えた患者様の中止しなければならない薬や重複処方などの様々なリスクの回避・軽減に努めています。

### ・自己管理薬の配布

薬を自己管理されている患者様には、直接薬剤師が薬を患者様の元にお持ちして、説明や服用状況の確認を行なっています。また、退院された後も正しく薬を服用していただくことを目標に、患者様によっては週に2~3回残数確認と説明を行っています。

### ・医薬品情報提供業務

薬剤師が常に病棟にすることで、医師や看護師からの問い合わせや指示への対応を速やかに行うことができます。また、各種カンファレンスにも参加しており、病棟スタッフに対し様々な医薬品情報を提供しています。

## 外来での持参薬鑑別業務

手術を控えた患者様には、外来受診時に一度面談を行って、出血を助長する薬など手術に影響する薬を服用されていないかの確認を行っています。これらの情報を事前に的確に把握することは、手術をより安全に行う上でとても重要なことです。手術を検討される予定の外来受診時は、薬の説明書やお薬手帳などが大切な情報源ですので、必ずお持ちください。

## チーム医療への参加

感染防止対策、褥瘡対策、栄養サポートチームなどのラウンドに参加し、薬剤師としての専門知識を生かして情報提供を行っています。それぞれの専門知識を高めるために、各種専門資格の取得を目標の一つとし、質の高い医療を提供できるよう努めています。

150床というアットホームな環境のため、医師や看護師など他の医療スタッフととても近い距離でチームの一員として患者様の治療に携わっています。

現在所属する薬剤部スタッフは、薬剤師14名、クラーク2名の計16名です。若いスタッフが多いため、教育には特に力を入れています。業務は縦割りではなく、一人一人が全ての業務に携わることで幅広い知識の修得に努めています。薬学部生への教育を行う場として各大学からの薬学部臨床実習生への講義や実習指導も行っています。このように、臨床の現場で役に立てる薬剤師を目指して、薬剤部一同益々努力していく所存です。